

教科書編集における  
イラストレーションと写真

グラフィックデザイナー／武蔵野美術大学教授 白尾隆太郎

教科書デザインのレイアウトは、実制作の数ヶ月前にテスト原稿を元にして基本フォーマットを決めることから始まる。そして、実際のレイアウト段階になって初めて、内容に合わせた写真やイラストレーションを考えることになるのである。

イラストレーションも写真もデジタル化によってデザイン作業はずいぶんと楽になった。たとえば、かつて写真はポジフィルムというスライド状のものをライブラリーから借りて印刷原稿として入稿していたが、現在ではほぼ 100%がデジタルになった。インターネットから仮のデータをダウンロードし、沢山の候補の中から最も適当な写真を選ぶことができるようになったのである。イラストレーションについても今やほとんどのイラストレーターがデジタルに対応しており、データの受け渡しはメールの送受信でできるようになっている。

写真はリアルに的確に物事を表すことができる一方、抽象的で内面的な世界を表すことは難しく、そのような表現が求められる場合にはイラストレーションの方がふさわしい。イラストレーションは人によって描かれるので、表現方法を自由に計画することができる。それだけに誰に依頼するのか、どんなモチーフをどんなタッチで描いてもらうのがとても重要になる。

LESSON 5

1


READING POINT  
物語の舞台であるマフワイについて詳しく見よう。(Part 1)

Q-3  
What were the tall white towers with three blades on the cover of the American textbook?

One day in a library, I noticed a book pushed back on the shelf and slightly concealed. It was an American textbook called *Using Energy*. The cover featured tall white towers with three blades at the top. I opened the book.

The book said, "Energy is all around you every day," explaining how wind machines grouped together can generate as much electricity as a power plant by their wind-driven blades. "That's it!" I said to myself. I remembered I had once done an experiment with a bike's half-broken dynamo with my cousin Geoffrey. Having connected it to a radio, we pumped the pedals of the bike, and the radio began to play.

But only one of us could dance to the music—the other had to keep pumping the pedals. "Yes, of course," I now thought,



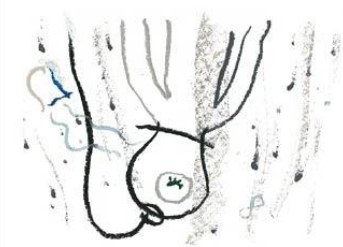
harnessed /hɑ:rnɪst(ɪ)/ Kaniwamba /kaniwɒmbə/ 1 concealed /kən'seɪld/ blades /'bleɪd(ɪz)/ generate /dʒenəreɪt/ dynamo /daɪnəməʊ/ Geoffrey /dʒi:frɪ/ pumped /pʌmp(t)/ pedals /'pedl(ə)z/ 8 power plant 発電機

76

UNICORN ENGLISH COMMUNICATION II を例にとってみよう。LESSON 5 *The Boy Who Harnessed the Wind* は、アフリカの少年が風を利用して発電する話だ。ストーリーに沿って描いてもらうのだから、シーンはリアルに、ただし話の要素としての「アフリカ、少年、がらくた」を「素朴に、力強く、鮮やかに」描いてもらいたいと考え、イラストレーターの米山夏子さんに依頼した。

一方、LESSON 9 *The Diving-bell and the Butterfly* は、障害を持った作者の内面を詩的に表さなくてはならないので、イラストレーションのタッチやモチーフは単純にはいかない。*Diving-bell* (潜水鐘) はあくまでも比喻であり、それをリアルに描いてしまつては、愚かなことになってしまう。熟考の末、イラストレーターのサイトウ・マサミツさんをお願いすることにした。本文にある “something like a big invisible diving-bell holds my whole body confined” といった内容をシンプルな表現とポエジーな雰囲気ですこはかとなく伝えてくれている。まさに、イラストレーションならではの世界だ。

LESSON 9



1

**READING POINT**  
作者が「潜水鐘」と「蝶」という言葉をどのようなたとえで使っているのかまとめよう。(Parts 1-2)

Q-① How long has the writer been confined to his bed?  
Q-② What word is used for the condition in which a person cannot move?

Through the curtain a soft glow tells the break of day. My feet hurt, my head weighs a ton, and something like a big invisible diving-bell holds my whole body confined. My room appears slowly from the dark. I look at every item: photos of loved ones, my children's drawings, posters, and the IV pole hanging over the bed where I have been confined these past six months. No need to wonder long where I am, or to recall that the life I once knew ended suddenly on Friday, 8 December, last year. Up until then I had never even heard of the brain-stem. I've since learned that it is an essential part

1: item /aɪtəm/ IV /aɪv/ stem /stɛm/  
6. hang over: Two reading lights hang over my big desk.  
diving-bell 潜水鐘 18世紀から19世紀に用いられた金魚養殖の装置で、内側の空気に空気が送り込むことで魚が呼吸できた。 6. IV pole 点滴スタンド 12.12. brain-stem 脳幹

152

イラストレーションの依頼は、事前の打ち合わせにそのすべてがあるといってもいいだろう。下書きも表現によっては難しく、仕上がりを楽しみにしながらも、なかなかスリリングな進行なのである。

イラストレーションは、現実を柔らかく、そして優しく表現することができる反面、制作進行はなかなか難しい。でも教科書全体の印象を考えると、そんなイラストレーションの優しい効果を十分発揮させたいと私は考えている。